

「良い医療を、効率的に、

地域住民とともに」

私達は地域住民の健康増進のため、他の医療機関や保健福祉分野と力を併せ、地域中核病院として、当地域の医療を担うと共に、さらに高度な医療に対応できるように努力します。

SCRUM

No.76

すくらむ

発行：赤穂市民病院 〒678-0232 赤穂市中広1090番地 TEL 0791-43-3222(代) FAX 0791-43-0351
編集：赤穂市民病院広報委員会

令和時代の看護

～変わるもの、変わらないもの～



副院長兼看護部長

田渕 誠子

現在日本で働く看護職員は約166万人であり、日本の人口の1%以上にあたります。看護大学も毎年増え、300校近い数になりました。少子・超高齢化社会が進み地域包括ケアシステムが推進される中、看護職員の役割は拡大し、ますます必要とされています。「病院元結型」から「地域完結型」医療になり、患者さんの医療とくらし両方の視点をもち、病院から地域につながる看護が求められています。毎年、高校や看護大学、看護専門学校に定期的に訪問をしています。主な目的は当院への就職につなげることですが、看護の現状を伝え、看護師をめざす人材が一人でも多

く現れるようにとの願いもあります。大学等の就職説明会には、その学校の卒業生であるスタッフに同行してもらい、後輩に当院の魅力を語ってもらっています。また、中学生のトライやる・ウィーク、高校生のふれあい看護体験では、「看護をめざす気持ちが強くなった」との感想もあり、未来の看護師に期待がふくらみます。赤穂市民病院では、330人余りの看護職員が、病棟をはじめそれぞれの部署で24時間、看護を実践しています。当院は地域の中核病院であり、急性期から地域につながる看護まで、さまざまな看護を学び経験できるのが強みだと思

ます。部署異動はチャンスと捉え、スタッフにはたくさん経験をしてほしいと願っています。それは今後看護師として働く上で大きな糧となると考えます。今年度、看護部ではクリニカルラダーに沿って事例検討を行っています。ラダーはI～V段階まであり、グループワークを通して各自が自己の事例をリフレクション（自分の行った看護を振り返る）します。司会は主任看護師、ファシリテーターは師長が担い、メンバーは事例を聴きながら素敵な看護だと思ふところを称賛していきます。ラダーIの新人が「患者さんに何もできなかつた」と言えば、ファシリテーターが「それに気が付くこと自体がすごいよ」と伝える、一方ラダーIV、Vのベテランたちは患者さんだけでなく家族にも配慮し、個性のある看護実践が見え、視野の広さに「さすが！」と感心します。各自が看護を語る場となり、他部署の看護を知れる機会にもなり、いきいきしているスタッフに出会い、私

自身元気をもらった気持ちになります。

医療は日進月歩をとげ、時代とともに看護の役割は拡大しています。AIが看護に参入することも遠くありません。時代が変化しても変わらない看護とは何でしょうか。目の前の患者さんの気持ちに寄り添い、患者さんが必要としているケアに対し、ていねいに心をこめて看護実践することだと考えます。そして、専門職として自律的に自己研鑽し、知識・技術を積み重ねていくことにより、寄り添う意味が深まっていくと思います。

これからの看護は、自施設だけでなく、近隣の医療・介護機関と積極的に連携し、地域住民のくらしに更に関わっていくことが期待されています。当院の看護職員一人ひとりが自分の強みを発揮し、「地域の皆さまの笑顔を引き出すおもいやりのある看護」を提供してけると信じています。



職場紹介 未来の外科

院長代行兼外科部長 横山 正

当院の外科は、現在5名のスタッフと、1名の兵庫県養成医の計6名で実質構成されている。邊見名誉院長、實光元院長の御指導を受けて何とか成り立っている。外科は新専門医制度になっても、人気がないようである。外科新専門医制度に登録した外科志望医が一人だけの県もあったとか。本院でも年度末にスタッフの欠員が出るたびに、補充をするのに毎年汲々としている。このままだと将来外科はどうなっているだろうか。

外科医の主な仕事は手術であるが、その方法は大きく変わった。小生が外科医になった37年前は、例えば胃がんの手術では大きく切って十分切除するという考え方であった。第二助手が肝臓を鉤で持ち上げて一定の術野を確保し、第一助手が横行結腸を牽引し、術者が大網、横行結腸間膜前葉を剥離切離していき、転移しそうなリンパ節をごっそり郭清し、場合によっては膀胱尾部も脾臓も胆嚢も合併切除していた。手術だけで再発をなくするのだという考え方である。当時は効果の期待できる抗がん剤もなく、拡大手術に邁進していた時代だった。

その後、比較試験で拡大手術は否定され、ほどほどの切除範囲で、臓器や機能を温存するという考えになった。そこに鏡視下手術が導入され、流れはさらに加速した。傷口を小さく、侵襲を小さくして切除するという方法だ。腹腔鏡、胸腔鏡を体腔内に挿入し、モニターを見ながら、細長い器具を駆使して手術する方法だ。体壁の破壊も少なく、内臓の体外への露出も最小限で、術後回復も早い方法である。手術器具も日々進歩改良され、術前の画像診断も緻密になり、手術中のモニターも3Dに、さらには画質が4K、8Kとなり、以前の開腹開胸手術では見えなかった微細な解剖も認識できるようになった。糸を結ぶ操作も極端に減った。小さな血管なら超音波凝固切開装置で挟めば、出血することなく切れてしまう。さらには、ロボット支援手術が広く保険収載された。ロボットは関節機能を有し、困難だった縫合結紮も容易となり、手振れもなく切離ラインを正確に設定できる。そして、インターネット回線の高速化で、ロボット支援手術は遠隔操作が可能となり、一人のスーパー外科医が遠隔から手術を施行できる時代になった。手術場において麻酔医、看護師等は必要ではあろうが、外科医に限ればその場にはいなくても手術は可能であろう。

しかし、ネット回線が誤作動したり、大規模停電になったりしたとき、緊急時の対応は誰がするのか。今まで開腹手術、腹腔鏡下手術の経験の少ない外科医は、その時どう対処するのか。さらに、腹部外傷、超緊急手術等では、まだまだ外科医が必要である。若き医師たちよ、外科医でないと治せない病気はまだあるぞ。



新人職員 一泊研修を終えて



研修医

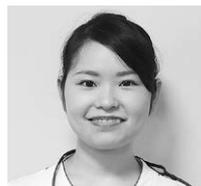
橋本 雅史

今年梅雨が明けののも遅く、湿度も

高い中、去る7月4～5日に新人職員一泊研修がありました。自分の仕事の環境にも慣れてきたころでしたが、普段顔を合わせない同期の方たちと、緊張と期待に胸を膨らませながら参加しました。研修

先に到着した途端、班に分かれ、恥ずかしさや普段慣れないことを行う緊張にぐっと堪えながら創作ダンスを行いました。でも、ダンスをしていると次第に打ち解けていき、笑顔が溢れる研修となっていました。また、講師のお話で、働く上での心構えや、自分のキャリアの考え方についてレールを引いていただきまわって親睦会を行い、和気藹々と夜は更けていきました。翌日には、自身では気づかない自分の長所に気づくためのレクリエーションがありました。自分がどう見られているか

を他人から教えてもらうという恥ずかしさの反面、自分の弱点を知ることができ、同期の方とも打ち解けることができ、得ることが多い研修を作っていたらいい、感謝しています。



看護部

兼光 春奈

この研修の中で一番印象的だった言葉は、「相手の予測を上回る心のつくり方」です。これは看護の場面においても同じであり、頼まれた事だけを行うのではなく広い視野を持って、患者さまが何を求めているのかを考え関わっていくことが、思いやりのある看護であると学びました。そのため、患者さまの言葉から自分だったらどうしてほしいかを考え、まずは小さなことから気づき、ニーズに対して思いやりのある対応ができるようにしていきたいです。

また、「自分を知る」「自分の軸となるものを知る」ゲー

ムでは、自分一人では思いつかなかった事も、皆が意見を出し合うことで案が生まれ、やり遂げることができ、協力の大切さが実感できました。他職種がそれぞれの専門性を生かし、意見を出し合いながら連携し、同じ方向性でサポートすることが、医療の場面においても大切だと思います。そのことが、多様な視点から患者さまを捉え、個々に合った最善の医療や支援を行うことに繋がっているのだと実感しました。

研修で学んだことを生かしながら日々フィードバックを行うと共に、指導していただいたことは素直に受け入れ、日々成長していきたいです。



リハビリ
テーション部

林 亜希

今回の研修で、他職種との連携の大切さを改めて感じることができました。また通常の業務内容とは違い、とても新鮮でした。就職して約3

か月経ちますが、普段病棟で



関わっていた方の顔と名前を改めて認識することができ、同期に声をかけあう機会が増え、縦の繋がりがだけでなく横との繋がりが広くなりました。2日間にわたり他職種の方々と共に研修を受講していく中で、「指示を出す人」「サポートする人」が存在し、それぞれがコミュニケーションをとることでチームワークが成り立ち、患者さまを支えていけるのだと実感しました。互いに意見を出し合っつ一つのものを作り上げることが達成感も感じることもできました。

今後は、現場において患者さま一人ひとりに対し、他職種の方々と連携し、それぞれの専門分野で患者さまを支援・サポートしていきたいです。

カンボジアで病理医を育てる

病理診断科部長 榎木 英介

2019年6月末、私はカンボジア王国の首都プノンペンにいた。半年ぶり、2度目の渡航だ。なんで私がカンボジアに？

そもそも始まりは、国立国際医療研究センターがカンボジアの妊産婦死亡率を低下させるために始めた事業。劇的な効果を見せ、妊産婦死亡率は低下したが、その代わりに子宮頸がん検診のニーズが高まった。

日本産科婦人科学会はカンボジア産科婦人科学会とともに子宮頸がん検診普及事業を始めた。

しかし問題があった。検診で異常が見つければ病理組織診断を行う必要がある。だが、虐殺などの影響で医師の育成が途絶えた時期があり、2017年時点で病理医はたった4人。標本を作製できる臨床検査技師もわずかしか

ない。これでは1400万人の人口を抱えるカンボジアで子宮頸がん検診はできない。そこで、日本臨床細胞学会なども関わり、カンボジア人の病理医や臨床検査技師を育成する事業がスタートした。その折、縁あって私に声がかかったのだ。

2018年に1期生5名が病理研修を終え、各病院で病理診断の業務を開始していた。そんな現場で奮闘する若い病理医たちを指導するのが今回の目的だ。研修を終えたと言っても、診断のレベルはまだまだ。指導者もおらず、標本の質もまちまちで、免疫組織や特殊染色も一部しかできない。日本でいえば1950年代くらいの水準だという。しかし、若者たちは厳しい環境をもつとせず、使命感をもって仕事に取り組んでいた。分からない症例はスマホで標本の写真を撮ってフェイスブックのメッセンジャーで共有し、相談し合っていた。

病理医が増え、カンボジア全土に配置されるまでにはま

だ時間がかかる。けれども、最先端のテクノロジーを駆使して食欲に学ぶカンボジア人の病理医たちが、後進を育成できるようになるのは、そう遠い未来ではないだろう。それまでは、微力ではあるが若い病理医たちに力を貸していきたい。

カンボジアは若く、発展著しい国だ。国民の平均年齢は

27歳。プノンペン市内には高層ビルが次々と建築され、街の中はエネルギーと希望に満ち溢れていた。雨季のプノンペンの空には、若者たちの輝かしい未来を暗示するかのよう、美しい虹がかかっていた(写真)。

渡航を快く認めてくださった赤穂市民病院の皆様に感謝申し上げます。

「私の仕事」

このコーナーは、毎号一人の職員(正規・臨時・パート・委託業者を問いません)に、自分の仕事を一言で表現し、その意味を語っていただくコーナーです。



託児所 主任保育士 金谷 京

「あなたの当院でのお仕事を、一言で紹介してください」
当院で働く方のお子さまをお預かりし、成長の手助けをしています。

「それは、どういうことですか」

居心地の良い、家庭と同じような場所。わがままが言える、受け入れてくれる保育士がいる、といった環境のもと、遊びや生活の中で一人ひとりの主体性を大事にしながら、初めて「やってきた」といった子どもたちの姿を、保護者の方と喜び合い、感動し、共感しながら、一緒に成長を見守っていく事で、働くお父さん、お母さんのサポートとなるよう保育しています。



News

病児・病後児保育室が開設されました！

平成 27 年 4 月、「子ども・子育て支援新制度」が施行され、地域の子育て支援の充実として「病児保育事業」が位置づけられました。当院では、平成 28 年より「(託児所併設型) 病児保育室」を開設しておりましたが、本年 6 月より、赤穂市運営の「病児・病後児保育室」も開設となりました。

利用される方においては、病気の子どもを他人に預ける不安、他児との接触による別の病気の感染への心配があるかと思われます。そこで、現在の運営状況についてご紹介したいと思います。

担当職員は、保育士 3 名、看護師 2 名（ローテーションで常時 1 名ずつ配置）です。看護師は、検温・病状の観察・投薬等を行い、病状のチェックをします。保育士は主に生活面を担当し、食事・排泄・睡眠において病状や発達段階を考慮しながら対応していきます。また回復期においては、あそびの提供もします。病状が変化した時は保護者に連絡し、必要があれば当院を受診します。また、感染症のお子さんは別室で保育看護しますので、別の病気をもらう心配は少なくなります。利用時には接触を避けられるよう、外来や入院の患者さまとは別の、駐車場から保育室までの通路が表示されています。

常に「病児ファースト」を念頭に、心と体に寄り添いながら、看護と保育の両面からお子さんがゆっくりと療養できるように、また保護者の方が安心して預けられるようにと、環境づくりを心がけております。



職場紹介 給食業務

日清医療食品株式会社

私たち日清医療食品株式会社は、全国の病院・福祉施設・保育施設様から食事サービス業務を受託しています。各受託先の医療機関・福祉施設・保育施設様に、最適なサービスの設計と運営管理を行い、「安心・安全な食材の供給」「治療・療養が必要な方など患者様の状況を踏まえた栄養摂取の設計とそれに基づく献立作成」「調理師による調理」「食育」など給食業務全般をトータルに請負っています。食に携わる企業にとって安全で安心・衛生管理の徹底は基本であり、同時に永遠に取り組みなければならないテーマであります。

「お客様の信頼と満足を得る 心のこもった食事サービスを提供する」これが日清医療食品のテーマです。これを実現するため、自主衛生管理マニュアルによる徹底した安全性の確保に努めております。また、社内に衛生管理室という独立した組織を備えて、衛生管理の実態をチェックし、食材に関しては物流段階での厳しいチェック体制をし、つねに改善・維持を図っています。

患者様に安全で安心してお召し上がり頂ける食事を提供できるよう努めてまいりますので、今後ともよろしくお願ひ致します。



- ①赤穂市民病院の食事のほか、併設の託児所の食事とおやつ準備も行っています。
- ②大量調理を行い、献立ごとに盛り付けを行います。
- ③全体写真
- ④配膳前の最終確認として、弊社栄養士がチェックを行います。

皮膚科の散歩道【第三十二回】

救急の現場

副診療部長兼皮膚科部長 和田 康夫

◆真夜中の館内放送

「コード99」深夜静まりかえった病院内に、短い館内放送が響きわたる。コード99は患者の急変があったときに、医師や看護師等を招集する緊急放送である。心肺停止など蘇生処置に一刻を争う。

時計を見る。夜1時過ぎである。日中ならスタップも多く、すぐに大勢が駆けつける。けれども今は休日の深夜だ。人も少ない。階段を駆け上がる。病室に入ると、中は騒然としていた。患者は致死性不整脈を起こしていた。看護師が懸命に心臓マッサージを行い、救命処置にあたっていた。

◆陣頭指揮

皆があわただしく動いている中、患者のすぐ傍らで一人悠然と座っている人がいる。循環器の今田先生である。患者の脈拍や全身状態、モニターの心電図波形、スタップの動向などまわりの状況に細

心の注意を払いながら、看護師たちに指示を次々に出している。

「アミオダロンを用意しておいて。あとマグネシウムも。」

今田先生は、不整脈を抑えるために、二手先、三手先を見すえていた。

◆ロスク

看護師が心臓マッサージを続けていると、今田先生が「はい、ロスク！」と大きな声をあげると、右手を前に出し心臓マッサージを中断するように促す。ロスクとは、Return of Spontaneous Circulationの略。自己心拍再開。不整脈が

治まり、心臓本来の鼓動に戻ったことを指す。

「12誘導心電図をとっておいて。カルテをチェックして病歴を確認してきます。」

今田先生はそう言い残し部屋を後にした。

◆心室細動ふたたび

電極をつけ心電図をとる。波形はスパイク状のきれいな調律である。不整脈を脱して本来の状態に戻っている。そう思っているのもつかの間、スパイク状の細い波形がゆがみ始め、次第に幅広くなってくる。私の心も次第に不安になつてくる。心室細動という致死性不整脈に戻ってきているような気がする。波形を皆が見守り、どうだろうと10秒ほど悩んでいる間に、一人の看護師がとっさにベッド上に飛び乗り膝をつき、心臓マッサージを再開した。集中治療室から応援にかけつけた看護師神武真理さんである。心電図が心室細動に変化したことを瞬時に察し、反射的に救命処置を行っている。

◆蘇生

間もなく今田先生が戻ってきた。不整脈波形をちらと見て、

「1回（の電気ショック）では治らないでしょう。」と落ちついた口調で答える。

「アミオダロンは用意できましたか？まだならリドカインでいいです。その救急カートの上にあるリドクイックで。」

救急カートは今田先生から3mほど先にある。薬の名前は小さくて識別できないはずだが、パッケージの色や形だけから見分けている。今田先生は、除細動器を両手に持ち、不整脈を治すための2回目の電気ショックを行う。手慣れた様子で、まるで日常の光景を見ているかのようなのである。今田先生が、

「時計係、次の波形チェックまであと何分ですか？」と尋ねる。心臓マッサージをしている救急部入江君が、

「あと、30秒で、チェック時間、です。」

と両腕を上下に動かし、あえぎながら答える。心臓マッサージをしている人は、それだけでふつう手一杯だ。他のことを考える余裕はない。入江君はどこで時間を確認していたのだろうか。きつと持ち場の救急部で、蘇生手技の時間感覚が研ぎ澄まされているのに違いない。患者さんは、

やがて息を吹き返した。今田先生は、患者さんの枕元で手をとりながら優しく語りかける。

「びっくりしたでしょう。不整脈を起こしていたんです。もう落ちつきました。これから原因をもう少し詳しく調べ

ましよう。」
後日、患者さんにお会いした。元氣そうな姿であった。

◆救急部

救急部には頼もしいスタップがそろっている。かつて全身の重篤なけいれんを起こした人が救急搬送された。ベッドが揺れるほどに全身を震わせている。直ちにけいれんを止める必要がある。けいれんを抑える注射を行うと、けいれんが止まると同時に、自発呼吸までもが停止した。それを見ていた救急部看護師西中さんは特段あわてた様子もなく、「呼吸が」止まったわね。」と言うと、いつのまにか手には人工呼吸用のマスクを用意している。それを隣にいたオペ室看護師長松下さんに、はいと手渡す。松下さんは、「そう、止まったわね。」と穏やかに答えマスクを受け取ると、何事もなかったかのように人工呼吸を始める。ごく当たり前のことが起きたかのように、自分が息をするかのように自然と手を動かしている。やがて患者の自発呼吸も再開した。

病院内の救急医療は、卓越したスタップの連携によって守られている。

研修医ノート

フレイハイ Vol.27

千田 有紗

大学のときから一緒の腐れ縁の板垣先生よりリレーを任されました、千田です。義士娘の、と言われてしまいましたので、今回は私の好きな赤穂について書きたいと思いません。

1つ目に好きなところは、のんびりとしているところで。宿舎から見える、千種川と、ボラがびよんと跳ねているのをベッドでごろごろしながら見るのが大好きです。夏の間、カーテンを開けてごろ

ようになりました。牡蠣もおいしいですが、赤穂市内の居酒屋さんや小料理屋さんが好きです。ぜひみなさん誘ってください。

3つ目はこの病院があることです。お世辞と思われるかもしれませんが、私はこの病院が大好きです。確かに規模は小さいかもしれないし、科もそろってないかもしれないですが、私にとってはここで働いていることを誇りに思える場所ですし、いつか帰ってきたいと思えるような病院になりました。こう思えるのも、日々接する先生方や看護師さんやスタッフの方のことが大好きだからなのだと思います。同期はなんともくせが強いですが、1年以上一緒にいて、それぞれに尊敬できて、自分がないものをもって先生ばかりです。後輩は、私の背中をみて育つどころか、私をどんどん超えていくよう



現在ローテ中の大好きな内科チーム

ごろしていたせいで、どこにも行っていないのに、焼けた？とよく聞かれていた気がします。(後輩に話したところ、逆に千種川から見えているのでは？と指摘されたので、今後気を付けようと思います)

2つ目は食べ物がおいしいところです。研修医になつて、すでに7kg増した私の体は、どんどんおいしいものを求める

な優秀さと、先輩の寂しがり屋を相手してくれる優しさも持ち合わせた素晴らしい後輩で、頭があがりません。今も原稿を書くのに、夜の11時までつきあってくれています。さて、私の赤穂ライフも短ければあと半年となり、思い出作りに精を出す時期となりました。皆さまぜひお相手お願いします。次は、斜め前の席の平林先生にお願いしようかと！よろしくお願いします。

新任医師紹介

①出身地②趣味
③当院の第一印象④抱負
——7月着任——



氏名 松井 宏樹
職名 脳神経外科部長

- ① 姫路市
- ② 釣り・筋トレ
- ③ 海が近い
- ④ 15万の人口を抱える脳卒中の中心的病院として地域の人々の信頼を得られるよう、そのスタッフとして尽力できれば幸いです。

編集後記

この号から紙質が変更になった。きっかけは「広報あこう」5月号から紙質が変わったことである。編集後記には、「紙面に照明が反射しにくい紙質に変更した」とあった。

執筆された、市役所のI係長を訪ねた。というのは、コスト削減にもなっているのではないかと思つたからであった。聞いてみるとやはり、紙質の変更でコスト削減もできているとのことであった。

「広報あこう」は毎月2万部近くと大量発行なので、I係長がレイアウトを作成し、業者には印刷のみを依頼する方が低コストだそう。逆に「すくらむ」は広報と比べると圧倒的に少数なので、印刷業者にレイアウト作成も依頼した方が低コストである。

早速すくらむ編集委員会に報告し、了承をいただいたので、今回から広報あこうと同じような紙質に変更となった。

削減額はわずかだが、病院の経費削減に貢献できたと思つている。と同時に、自分の食事の量も削減が必要では？と感じている。

(T・M)